

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1090100825		
法人名	株式会社 上毛福祉会		
事業所名	グループホーム さちね		
所在地	群馬県前橋市上細井町2015		
自己評価作成日	令和5年 8月 26日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人群馬社会福祉評価機構		
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12		
訪問調査日	令和5年9月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「介護する人される人 誰もがみんな家族です」「地域との輪ふれあいの輪 心のケアを大切に」ホームの理念であり、家庭的な雰囲気や心がけ居心地の良い場となれるよう、お手伝いさせて頂いています。心のケアに重点を置き、心の支えになれる様、寄り添っていきたくと思います。建物は平屋の木造で木のぬくもりを感じられ、大きな窓からの中庭の景色は季節を感じられ、外庭に桜の木があり、お花見も身近に楽しめます。緑豊かな面は、精神的に落ち着きを与えられると思います。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員は、日常のケアのなかで、特に羞恥心やプライバシーに配慮し、利用者一人ひとりの言葉のとらえ方や理解度等を認識して、その人にあった支援を工夫している。職員間で利用者の状況を意見交換する時にも、利用者の名前だけでなく居室名を用いて情報共有を図っている。自立排泄に向けては、利用者個々に合わせたわかる声掛けで、まずはトイレに誘導し便座に座ってもらうことで、自立の意識の向上を支援している。また、入浴時には、利用者職員が1対1になることで、利用者個々の人となりを知る大切な時間と捉え、コミュニケーションを通して利用者の思いや現状を把握し、普段は聞くことのできないことなどを聞くなど、利用者寄り添う支援に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホームの理念「家族」「心のケア」をテーマに寄り添いながら、その方にとっての望ましい暮らしとなれる様に、努力している	理念にある「家族」をテーマにして、つらい時・うれしい時を共有し、利用者に寄り添うケアに努めている。現在は職員会議等では理念をテーマにした話し合いはもたれていない。	職員間で理念の持つ言葉の意味を理解し共有するためにも、理念をテーマにした話し合いの機会を検討することを期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域自治会に加入しており、繋がりがあがる。地域の農作物を、定期的にいただきホームの食事、行事等に利用している。	自治会に加入し、自治会長が運営推進会議に参加している。地域の方が定期的に農作物を届けて下さるなど、地域との交流が図られている。コロナ禍で心配なこともあるが、これからも自治会の行事に参加して、事業所をアピールしていくことを心掛けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の場で、発信できる		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	対面開催で運営推進会議の開催を行なえるようになり、情報等発信し ご意見伺う	コロナ禍で書面開催であったが、5月から対面での会議開催となり、事業所の近況報告や理念等が話され、地域との情報交換が行われている。今後は運営推進会議等を通して、認知症の方の家族の相談を受けるなど、地域に事業所の存在を発信していきたいと考えている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議で、行政の立場からのご意見伺う	市との連携は、運営推進会議への職員の参加と、介護保険更新や各種報告書等の提出、空き室状況の報告がメール中心で行われている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアの共有認識を図っている。玄関の施錠は夜間のみ、門の施錠は昼夜問わず行っていない。	「自由を奪わない」ことをケアの目標にして、ベツ柵は個別の状況に合わせて使用したり、スピーチロックなど言動に注意したりするとともに、利用者の身体の傷や内出血などをチェックして、利用者個別の身体図に記入し、職員間の共有を図っている。	利用者個々の尊厳を守りながら、どのように安全を確保できるかなど「拘束しないケア」実現に向けて検討することを期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体のおざ等の確認等、不適切なケアについて職員間で確認しあっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学ぶ機会が無く、今後話し合いの場を設けていければと、思っております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結に関し、ご家族に説明・納得して頂いている。改定の際は、口頭で説明させて頂いてから、書面でもお伝えしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者のご意見は日常の中で傾聴の機会を設けているも意見には至らず、ご家族のご意見は気軽に話せる機会を設けている。	家族とは面会時等に気軽に話せる雰囲気作りに努め、日常生活状況等の意見交換を心掛け、サービス向上に繋げている。	運営に関する家族からの意見を頂くためにも、事業所側からの具体的なテーマの投げかけが大事なことから、家族が運営に関して意見を述べ易く出来るよう検討することを期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見等、会議や個別でも話せる機会を設けている。	職員会議を月1回19:00~20:00に、全員参加で開催している。会議ではケア中心の意見交換ではあるが、職員提案で各居室と職員休憩室のエアコン交換が実現した。	職員間で職場環境の改善を図るための話し合いの機会作りを検討することを期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者からの報告により、職員に関する事や環境等を把握し、対応している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	人員の余裕も無い状況等で、現在取り組んでおらず、今後研修に参加できる機会を設けていければと思います。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在は、個人で研修会等に参加・交流できる機会が無いが、今後質の向上に繋がれる機会が作れればと思っております。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご要望等伺い、伝えられない方には状態確認しながら寄り添い、安心してサービスを受けて頂けるよう、信頼関係に努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	気軽に話せる様な関係作りに努め、メール等でも気軽に相談できるよう、努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期対応に必要な支援をご相談の上、できるだけその思いにお応えできるよう取り組んでいる。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の大先輩でもあるご利用者様のアドバイスを頂き、生活の中で活かし、支え合って暮らしていけるよう努めている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍の中でも、大切な家族との面会は必要に応じ行ってきており、皆で支え合えるよう努めている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍でも、ご相談があれば短時間でも心が和む時間が作れるよう努めている。	キーパーソンだけでなく、親戚の方達が面会を気軽にできる機会づくりを心掛け、利用者の大切な時間を作る配慮をしている。利用者のニーズにできるだけ応えられるよう、馴染みの関係継続に取り組んでいる。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々の生活の中で気の合う方、合わない方の関係を把握し、職員が共有し支え合えるよう、支援に努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長年入居されていた方のご家族とは、季節の挨拶等手紙やメール等で近況報告のやり取りや相談を、受けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	理解困難な方、言葉で表現できない方でも、日常生活の中で答えが見つけれられるよう、職員間で話し合い、居心地の良い場とされるよう、努力している。	認知機能の低下により利用者の思いや意向を直接傾聴することが困難であるため、日常の利用者のケアを通して、観察したことや問題点等を、日頃の話し合いの中や職員会議ノート等を活用して共有し、利用者の思いや意向等の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人・ご家族様にお話を伺い、日々の暮らしの中でも把握に努め、多くの情報が得られるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の記録、申し送りや会議等、職員間で把握し望まれる生活となるよう努力している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人の状態確認しながら、ご家族のご意向伺い、職員間で課題等話し合い、計画の見直しに繋げている。	介護計画の長期・短期目標は各々6ヶ月・3ヶ月となっているが、毎月の職員会議でカンファレンスを行い、実践結果をモニタリングして、介護計画書の見直しに繋げている。	介護計画にある、サービス内容の支援方法などを具体化し、各種記録が介護計画と一貫性の取れる記録となるよう検討することを期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の変化等を個別に記録し、職員間で共有し把握しながらケアを行ない、介護計画に繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	内科・歯科・訪看ステーション・訪問サービスの散髪とその方の状態、ご要望に応じ取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナの影響もあり、ボランティアの方との交流が現在機会が無い状況である。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科・歯科の協力して頂いている主治医がいていつでも相談できる体制が整っている。	月2回協力医が利用者全員を訪問診療するとともに、歯科医の訪問診療も希望者に月2回行われている。他科への通院は、原則職員対応となっている。体調不良時には、訪問看護師の対応も可能で安心出来る医療体制が整っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホームには看護職の配置はないが、契約しているクリニックの訪問看護師に、相談できる体制は整っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は、面会・電話で状態確認に努め早期退院可能であれば、入院先の治療医と相談させて頂く。ホームの主治医にも相談させて頂く。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や看取りについては、入居の際に説明させて頂いている。その都度その方の状態に応じ主治医・ご家族・ホーム側と話し合いをし、意向を確認しながら対応している。	重度化や看取りは主治医の判断のもと、家族へのインフォームドコンセントにて対応を決定し、職員間でのチームを作り、状況を共有出来る体制を整えている。現在10件の看取り経験がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを掲示し、緊急時に備え会議で対応方法の確認をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回の避難訓練を職員・ご利用者の方と行っている。緊急時に地域の方の協力体制がある。	日中・夜間を設定し、年2回の自主避難訓練を実施している。訓練は職員中心で火災想定で行われ、利用者の自立歩行者の誘導とともに、車椅子利用者の誘導避難を実施している。訓練開催については、家族・地域の方にお知らせしていない。	災害時は地域の方々の協力がかかせないので、訓練には家族の参加も含めて検討することを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その方にあつた、お声がけをし排泄や入浴介助等さりげない言動に注意するよう心がけ、対応している。	職員も含め他人に居室に入られることを極端に嫌う方や、丁寧語を嫌う方など、利用者一人ひとりの個性を職員間で共有し、羞恥心やプライバシーに配慮してのケアを工夫している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	言葉で伝えられない方や、理解できない方は表情等で見極め、その時の状態に応じ対応している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの思いを大切にしながら、マイペースでその方らしい暮らしができるように、努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問サービスでの散髪、ホームでの散髪を行い身だしなみを整え、時には化粧をし おしゃれを楽しんでいただけるよう、取り組んでいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	行事食等取り入れ、ホットプレート使用し作業のお手伝いして頂いたり、時には外での花見のランチも楽しむ。	食材は、週1回の宅配と不足があれば職員が購入し、3食とも職員が当番制で調理して、献立を記録している。利用者の意見は、広告などを見て何が食べたいかを確認し取り入れるなど、楽しい時間になるように臨機応変な対応がなされている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量はチェック表で確認しながら、情報共有し支援している。その方の嚥下の状態、好み等に応じ無理なく提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、その方に応じた 口腔ケアを行ない状態確認している。歯科受診受けている方のケアの指導もして頂き、口腔ケアについての学びもおこなっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表で、個人の排泄パターンを把握し、その方に合ったトイレ誘導、声掛け行なっている	排泄チェック表で確認し、タイミングを見て各利用者に声をかけるが、その際には「トイレ」「おしっこ」などの利用者個別の認識の仕方に合わせてトイレ誘導している。便座には必ず座ってもらい、自立排泄に向けての支援を行なっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表で、排便間隔の日数や便の状態確認しながら、その方にあつた対策を行なっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそつた支援をしている	週末は面会等もあり、お休みと他の曜日は入浴できる体制があります。その方に応じ、向き合える場面でもあるので、ゆっくりご本人のペースで入浴支援をしている。	入浴時は、1対1になるため大切な時間と捉え、利用者の悩みや心配事、身体状況についてコミュニケーションをとり観察し、職員間で情報を共有している。入浴は、週2回で同性介助も含め、利用者のニーズに応えられるよう取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方の状態に合わせて、静養して頂いている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理表で、個別の薬の確認ができるようになっている。チェック表で誤薬の防止、居宅管理サービスで管理相談できる体制がある。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご家族から以前の楽しみごと等の情報を得たり、ご本人に伺いながら、日々の支援に生かせるよう努力している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそつて、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	ご利用者の方の体力低下や意向、コロナの影響もあり、外出支援の取り組みが、できない状況である。ホーム庭での外気浴で、気分転換を図っている。	利用者の重度化や感染症の影響で、積極的な外出を実施していないが、中庭のウッドデッキに出て外気浴や気分転換を行い、身体的負担を最小限にして楽しんでもらっている。入居したばかりの利用者は、家族と短時間の外出を行うなど、徐々に希望に沿つた支援が回復している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物の希望があれば、立て替えて支援できる体制可能である。お金の所持については、現在は おこなっておらず。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話お持ちの方は、ご家族に自らお電話されている。機能低下で電話・手紙のやり取り困難な状況であるため、ホームでの様子を動画や 写メで送らせて頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地の良い場となるよう心がけ、食堂の席は状態に合わせた配置にし、玄関等季節の花・人形等を飾り、季節感を採り入れている。	車椅子が通れるように共用部分や廊下・居室の動線を確保している。食堂の席は、利用者の状態や気の合う人を一緒にする等、利用者のニーズに応じている。季節感を味わってもらうためお雛様や兜を飾って、くつろげる空間作りに取り組んでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下のベンチ、和室等で気の合う方との居場所の確保はできている。 お一人になれる空間も大切にしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には馴染みの物、布団や家具、写真等を 持ってきて頂き 安心して暮らせるよう、配慮している。	居室は家族と一緒に馴染みの物を設置したり、利用者の好きな人形やTVを置き、本人本位の居室作りに取り組み、居心地よく過ごせるように工夫がなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ・廊下・居室等に手すりの設置があり、歩行 の安全確保をし、トイレの目印があり 場所の確認ができる。現状では自立困難な方が多くなっている。		